

新年のご挨拶



理事長
栗 貴章

あけましておめでとございませう。

組合員並びにご家族の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当共済組合の事業運営に対し、格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

このたび、昨年12月5日に開催された第205回組合会におきまして、引き続き理事長の重責を担うこととなりました。微力ではございますが、共済事業発展のため最善の努力を尽くす所存ですので、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、医療提供体制の逼迫やデジタル化の遅れなどの問題点が浮き彫りになりました。こうした状況を受け、政府は「骨太方針」のなかで、医療分野の

デジタル化推進を目的として「医療DX推進本部」の設置を明記し、昨年10月に発足させました。

本年4月からはオンライン資格確認を原則義務化し、2024年中を目途に現行の健康保険証（組合員証）を廃止して、マイナンバーカードとの一体化をめざすこととなりました。さらに、オンライン資格確認システムを利用した電子処方箋の運用も本年1月より開始となり、医療のデジタル化による医療費適正化、サービスの効率化・質の向上に向けた改革が進められています。

また、共済組合の財政に多大な影響を及ぼす高齢者医療については、昨年10月より一定所得以上の後期高齢者の医療費窓口負担が2割に引き上げられました。しかしながら、現役世代の負担軽減効果は不十分です。少子高齢化にも歯止めがかけられず、2042年には高齢者人口が

ピークを迎える一方で、国民皆保険制度の支え手である現役世代の人口は減少が続いています。国民皆保険制度の持続性確保のためにも、全世代型社会保障制度への転換が急がれます。

こうした情勢のなか、共済組合では特定健診・特定保健指導をはじめ、人間ドック検査や歯科健診への助成、健康管理セミナーなど各種保健事業を通じ、組合員とご家族の重症化予防、健康保持・増進のお手伝いをしてまいります。

また、栗津温泉「おびし荘」においては、感染防止対策を講じながら、各種プランをご用意し、皆様に満足いただけるようサービス向上に努めてまいります。

最後になりますが、皆様にとって実り多き一年となりますことを、ご祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。